

年に旧日本海軍が航空基地として定めたことに始まり、終戦を迎えて米軍に接収され、昭和25年には米海軍による使用が開始されました。その後昭和46年、海上自衛隊の移駐により日米共同使用の基地となり、現在に至っております。

この間、厚木基地周辺地域では都市化が急速に進み、人口も急増する中、市民は厚木基地に飛来する空母艦載機の甚大な騒音被害に悩まされてまいりましたが、この騒音被害解消に向けた市民・議会・行政の三位一体の取り組みにより、平成30年3月までに、厚木基地の歴史上の節目ともいえる空母艦載機の岩国基地への移駐が完了いたしました。

この移駐により、100デシベルを超える航空機騒音は、移駐前に比べて9割以上減少するなど、厚木基地周辺の騒音状況は大きく変化しており、私たちの長年にわたる不断の取り組みが、このような成果に結び付いたものと、今、強く実感しているところでございます。

一方で、こうした中にあっても、厚木基地では、その運用において様々な動きがみられており、昨年来、陸上自衛隊による降下訓練や米陸軍によるペトリオット部隊の展開訓練で使用され、さらに今年に入って米陸軍部隊が厚木基地へ展開し、約8か月にわたる訓練を実施している現状もございます。

本市はこれまでも、厚木基地において、新たな部隊の配備や市民の負担増加につながる運用は容認できないとの考えを示すとともに、基地の整理縮小を求めてきたところであり、今後も国際情勢や国の安全保障政策など、幅広い視野を持ち、その時々厚木基地の運用の変化等を注視しながら、市民生活への影響等をしっかりと見極めていくことが極めて重要であると考えております。

国の防衛・安全保障政策において重要な役割を担うとされている厚木基地の所在により、航空機騒音や部品落下等の事故への不安だけでなく、航空法による高さ制限が街づくりに及ぼす影響、さらには国際情勢が厚木基地や周辺地域へ及ぼす影響など、空母艦載機の移駐が完了した今でも、市民は様々な負担を強いられています。

基地の整理縮小、返還が容易には見込めない現在の国際情勢等を踏まえますと、こうした多大な市民の負担も、国を支える重要な要素として適切に評価されるべきであると考えており、国が負担の軽減に向けた取り組みを進めることはもとより、国が行う周辺対策等につきましても、さらにその重要度を増しているものと捉えております。

本市といたしましては、24万人もの市民が、今後も厚木基地に起因する様々な負担を背負っていかねなければならぬという現実を、国や米軍にもし

っかりと受け止めていただくとともに、将来を担うこどもたちが、住んでいてよかったと誇れる大和市となるよう、引き続き厚木基地に関わる諸課題の解決に向け、全力で取り組みを進めてまいります。



以上、「健康都市 やまと」を実現するための所信並びに主要な事業について、申し述べてまいりました。

新型コロナウイルスへの対応は、未知への挑戦であると捉えています。ウイルスそのものが人類にとって未知の存在であることに加え、新しい生活様式やリモートワークなど、人々の生き方が未知の領域へ大きく変容を遂げていくことが求められています。

未知なるものへの対応には、類似点がある前例から解決策を探し出していくことも非常に有効な手段となるのではないのでしょうか。

冒頭に申し上げた大和市おもしろいマスク着用条例の制定にあたっては、当時、感染防止にはどのような方策が有効か、明確には示されていないと思われる中、私は思案を重ねながら、そのヒントを、100年前に流行したスパニッシュインフルエンザの「歴史」に見出し、マスクの重要性について市民の皆様との共有を図ることを決断いたしました。結果として、その後、国が

示した「新しい生活様式」の実践例において、感染防止の基本としてマスクの着用が謳われたとともに、WHOも、公共の場でのマスク着用を推奨する形へ方針を転換するなど、マスク着用が大切であるとの認識が全国的、世界的に広がっていったところでございます。また、新型コロナウイルス対策として、我が国においても急速にデジタル化が押し進められようとしており、国は9月にデジタル庁を発足させることを予定しております。そうした流れも踏まえ、本市でも、新年度、現在の情報政策課を「デジタル戦略課」へ再編するとともに、新たに民間のデジタル人材を登用し、市政のデジタル化という未知の分野において、既成概念にとらわれず戦略的に改革を進められるよう体制を整えてまいります。

未だ事態収束の見通しが立たない中で、今後も、これまでに経験したことのない課題、問題に直面することがあるかもしれません。そのような難局を乗り越え、日々の暮らしを守っていくためには、市民、議会、行政が一致団結し、それぞれの最善を尽くしていくことが肝要です。私も、24万市民の命を預かる市政の舵取り役として粉骨砕身、身を捧げてまいります。

今後とも、議員並びに市民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。令和3年度の施政方針といたします。